吉田城址（よしだじょうし）・飽海（あくみ）遺跡（本発掘調査B）

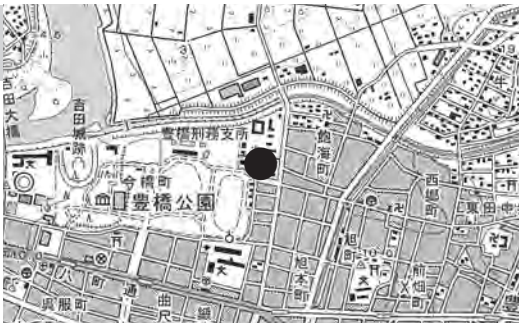
所 在 地　豊橋市今橋町6番地地内
（北緯34度46分12秒　東経137度23分59秒）

調査理由　愛知県東三河建設事務所改修工事(発電機棟等建設)

調査期間　令和4年12月

調査面積　100㎡

担 当 者　樋上 昇・蔭山誠一



調査地点（1/2.5万「豊橋」）

調査の経過　本遺跡の調査は、愛知県東三河建設事務所改修工事（発電機棟等建設）にともなう事前調査として、愛知県建築局公共建築部公共建築課より愛知県県民文化局を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、令和４年12月に調査を実施した。調査区は愛知県東三河建設事務所の北側にある。調査面積は100㎡で、北側を22A区、南側を22B区、中央の東側を22C区に分けて調査した。

立地と環境　吉田城址・飽海遺跡は豊橋市中央部にある豊川の左岸河岸段丘上にある遺跡で、今回の発掘調査地点は吉田城址の北東側にある外堀が通る地点にあたる。また調査地点は縄文時代から中世にかけての飽海遺跡とも重複している。

調査の概要　今回の調査では、鎌倉時代と江戸時代の主に２時期の遺構と出土遺物が確認できた。

鎌倉時代では、柱穴と思われる土坑18基を確認することができた。土坑は径10cm～35cmの平面円形状のもので、007SKより焼き締め陶器の甕が出土した。

江戸時代では、溝３条を確認することができた。001SDは22A区から22C区の西側にて確認された吉田城址の外堀の東肩部分にあたる。002SDと019SDは22B区から22C区の南側から22Bに確認された溝である。これらの遺構からは、江戸時代後期から近代にかけての陶磁器などが出土した。（蔭山誠一）

22区全景（東上空より）

22B区SK007（北東より）